

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和8年3月27日

三田市議会議員 肥後 淳三 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	市民とともに		代表者	
			議員名	大西 憲司
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司			
視察先	①石川県リハビリテーションセンター.....石川県金沢市赤土町ニ 13-1 ②富山県朝日町「あさひ総合病院」.....富山県下新川郡朝日町泊 477 ③富山県富山市役所.....富山県富山市新桜町 7-38 ④金沢市役所.....石川県金沢市広坂 1丁目 1-1			
調査事項 (調査目的)	①病院の指定管理の取組について ②看護師の働く環境整備について ③公共交通活性化について ④災害時の2次避難所について			
日時	2026年1月20日(火曜日)～2026年1月22日(木曜日)			
支払金内訳	科目	支出額	摘要	
	宿泊料	27,000	13,500円×2泊	
	日当	9,000	3,000円/1日×3日	
	鉄道賃 (モジュール)	36,100	JR三田⇄JR金沢(運賃)(1/20・22) $5,500 \times 2 = 11,000$ 円 JR大阪→JR金沢(指定席)(1/20)=4,370円 JR金沢⇄JR富山(運賃・指定席)(1/21・22) $3,190 \times 2 = 6,380$ 円 富山⇄泊(富山)(1/21) $1,020 \times 2 = 2,040$ 円 ※1 JR金沢→JR東京(指定席) 6,700円 ※2 JR東京→JR新大阪(指定席) 5,610円	
	バス賃	1,240	泊駅前⇄あさひ総合病院前(1/21) 400円 富山駅前→総曲輪(1/21) 210円 総曲輪→富山市役所前(1/22) 210円 富山市役所前→富山駅前(1/22) 210円 JR金沢駅前→広坂・21世紀美術館(1/22) 210円	
	タクシー	1,942	※3 JR金沢⇄済生会金沢病院(1/20) 往路 2,800円÷4人=700円 復路 3,100円÷4人=775円 ※4 金沢市役所→JR金沢駅(1/22) $1,400 \text{円} \div 3 \text{人} = 467 \text{円}$	
	その他	13,089	手土産 3,089円×4か所/4人= 3,089円 「あさひ総合病院」視察費 1人 10,000円	
合計	88,371			

備考	<p>(詳細は別紙参照)</p> <p>※1-※2 1/22 大雪により北陸線(近江塩津～敦賀間)終日運転取り止めに伴い止む無く他経路(金沢駅～北陸新幹線～東京駅～東海道新幹線～新大阪)を利用する必要があったため。(運賃5,500円+(指定席:6,700+5,610)円=17,810円)</p> <p>※3 1/20 石川県リハビリテーションセンター⇄金沢駅(宿泊ホテル)間は、他に利用できる公共交通機関がないこと及び運行本数が少ないためタクシーを利用。</p> <p>※4 1/22 大雪により他経路(金沢駅～北陸新幹線～東京駅～東海道新幹線～新大阪)を利用するにあたり、金沢市役所での視察終了(~16:20)後、金沢駅発の電車の発車時刻(16:48)に間に合う必要があるため止む無くタクシーを利用。</p>
----	--

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和8年3月27日

三田市議会議長 肥後 淳三 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	大西 憲司
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先及び調査事項（調査目的）	① 石川県リハビリテーションセンター 石川県金沢市赤土町ニ13-1 病院の指定管理の取組について ② 富山県朝日町「あさひ総合病院」 富山県下新川郡朝日町泊477 看護師の働く環境整備について ③ 富山県富山市役所 富山県富山市新桜町7-38 公共交通活性化について ④ 金沢市役所 石川県金沢市広坂1丁目1-1 災害時の2次避難所について		
日 時	2026年 1月 20日（火曜日）～ 2026年 1月 22日（木曜日）		
視察先対応者	① 石川県リハビリテーションセンター:健康福祉部 今井様、番匠様 石川県リハビリテーションセンター 船田様、岸谷様 ② 富山県朝日町「あさひ総合病院」:町長 笹原様、議長 水野様、 議会事務局 野崎様、あさひ総合病院 事務部長 野口様、看護部長 山崎様 ③ 富山県富山市役所:活力都市創造部 野村様 ④ 金沢市役所:危機管理課 三柳様、議会事務局 安藤様		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
・ 調査結果及び所見は、別紙1：石川県リハビリテーションセンター視察報告 別紙2：富山県朝日町「あさひ総合病院」視察報告 別紙3：富山県富山市 別紙4：石川県金沢市 に添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

い。

別紙1 石川県リハビリテーションセンター視察報告

視察先	石川県リハビリテーションセンター
視察日時	令和8年1月20日 14:00～16:00
視察内容	病院の指定管理の取り組みについて

石川県リハビリテーションセンター概要

- 1994年10月 リハビリテーションセンター業務を開始
- 1996年4月 バリアフリー推進工房設置
- 1998年7月 「バリアフリー体験住宅ほっとあんしんの家」オープン
- 2006年4月 済生会金沢病院がリハビリテーションセンター医療部門の指定管理者となる
- 2006年5月 難病相談・支援センター設置
- 2007年4月 高次脳機能障害相談・支援センター設置

視察内容

- ・リハビリテーションセンター  
医療部門のみ済生会金沢病院が指定管理として運営
- ・地域リハビリテーションセンター  
リハビリテーション専門相談、研修を通して地域の保健、医療、福祉関係機関の連携支援
- ・バリアフリー推進工房  
医・工学専門職の連携により、障害のある人への自立生活支援や企業、行政などへの技術支援
- ・難病相談・支援センター  
難病患者や小児慢性特定疾病の児童など、療養者、家族、支援者への支援
- ・高次脳機能障害相談・支援センター  
高次脳機能障害によって日常、社会生活に制限がある人、家族支援者への支援
- ・ほっとあんしんの家  
福祉用具や住環境の調整による自立生活と社会参加の促進

2006年に指定管理となった経緯は、石川県が2006年から指定管理制度を導入したため。

県職員(センター所長)が済生会の業務にも従事しており、業務の割合に応じて、済生会に給与を負担してもらっている。

リハビリテーションセンターは兵庫県立総合リハビリテーションセンターを参考にしている。

所感

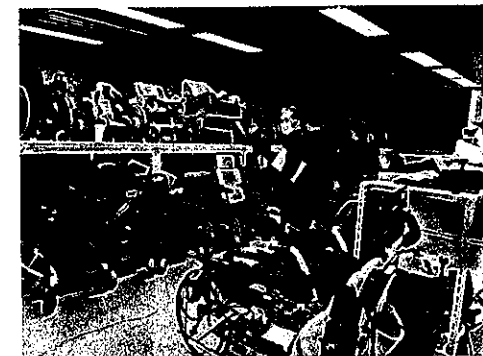
指定管理移行後も施設内に行政部門と済生会が同居しているためか、連携をしながら運営をしている印象を受けた。リハビリテーション医療の部門は経営的に安定して黒字となっており、経営的には安定しやすいとのコメントもあった。三田市においても三田市民病院の跡地活用として回復期医療を検討しており、回復期医療の必要性、経営の安定性を知ることができたため、跡地活用の検討推進があらためて必要だと感じた。また、この施設は能登震災の際に医療や介護が必要な方のための1.5次避難所運営に協力しており、三田市においても災害時の1.5次避難所の準備など、災害に対する様々な備えを検討する必要性を感じた。



事業説明聴講時の様子



リハビリテーションセンター



バリアフリー推進工房



ほっとあんしんの家

別紙2 富山県朝日町「あさひ総合病院」視察報告

視察先	富山県朝日町「あさひ総合病院」
視察日時	令和8年1月21日 10:00～12:00
視察内容	看護師の働く環境整備について

**富山県朝日町概要**

面積：227.41km<sup>2</sup> 人口：10,056人(R8.1.1現在) 世帯数：4,474世帯(R8.1.1現在)  
 海拔0メートルのヒスイ海岸から標高3000メートル級の北アルプスに至る自然に恵まれた町

**富山県朝日町「あさひ総合病院」概要**

許可病床数：109床(2病棟) 診療科：16診療科 職員数：159人  
 1日平均外来患者数：422.5人 1日平均入院患者数：94.1人 病床利用率：86.3%

**視察内容**

・あさひ総合病院再編

高齢者医療の先進モデルとなる病院として再生する。

病床数：199床(3病棟)⇒109床(2病棟) 医療職員確保のため福利厚生施設改修

在宅介護支援センター、認知症院内デイサービス、訪問・通所リハビリテーションなどを新設

改修後の主な福利厚生施設・・・職員食堂、女子更衣・休憩室、女子仮眠室、実習生休憩室、図書室など  
 改修に向けて、あさひ総合病院 経営改善検討委員会を設置

↳ 城西大学 伊関教授など外部委員も含めて構成し、議員や監査委員が傍聴できるオープンな環境で実施

・医療職確保に向けた主な取り組み

H26年4月 初任給調整手当の創設(医師、看護師、薬剤師)

↳ 看護師は月額2万円以内、薬剤師は月額3万円以内

H27年5月 病児病後児保育所の開設

H28年7月 民間アパートを借上げ、医療福祉従事者アパートとして活用

H28年8月 院内保育所の開設

H29年1月 看護学生修学資金貸与制度

↳ 貸与月額：5万円→10万円 返還免除期間：5年間→3年間

H29年2月 京都看護大学との看護人材確保等の連携・協力に関する協定締結

↳ 看護体験ツアーinあさひを開催

H29年4月 看護師の夜勤手当を引き上げ

↳ 約1400～2700円UP

H31年4月 病棟改修工事を行い、福利厚生施設を充実

H31年4月 富山大学付属病院との寄附講座を開設

R2年4月 医学生修学資金貸与制度と一部改正

↳ 貸与月額：14～20万円 返還免除期間：2年以内

R3年4月 薬学生修学資金貸与制度の創設

↳ 貸与月額：12万円 返還免除期間：2年以内



女子更衣・休憩室



職員用食堂

**所感**

様々な福利厚生の充実のためかは不明だが、病院を訪問し最初に感じたことは働いている職員が明るく、挨拶含めてとても元気があったことだ。福利厚生の充実により確実に看護含め医療人材の確保、離職低下など成果を上げている。今後、三田市含め、少子高齢化の影響で労働人材が減少する中で、病院の核となる人材確保のため、福利厚生の充実など市行政として着実に実施していく必要性を感じた。

視察先	富山県富山市
視察日時	令和8年1月21日 14:00～16:00
視察内容	公共交通活性化について

## 富山県富山市概要

人口：413,938人 面積：1,241.70km<sup>2</sup> 令和6年度一般会計予算：約1,758億円  
 海拔0m(富山湾)から2,986m(水晶岳)までの多様な地形

## 視察内容

- ・富山市のこれからのまちづくりの課題
  - ①人口減少と超高齢化社会 ②過度な自動車依存による公共交通の衰退 ③中心市街地の魅力喪失
  - ④割高な都市管理の行政コスト ⑤CO2排出量の増大 ⑥市町村合併による類似公共施設
  - ⑦社会資本の適切な維持管理 ⑧平均寿命と健康寿命の乖離
- ・富山市のまちづくりの基本方針
 

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を実現

{実現させるための3本柱}

  - ①公共交通の活性化 ②公共交通沿線地区への居住推進 ③中心市街地の活性化
- ・まちづくりの進め方
  - ①規制強化ではなく、誘導的手法が基本
  - ②市民がまちなか居住か郊外居住かを選択できるようにする
  - ③公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくりを推進
  - ④地域拠点の整備により全市的にコンパクトなまちづくりを推進
- ・公共交通の活性化
 

富山市公共交通活性化計画の策定(2007.3)

LRTネットワークの形成

  - ↳ 富山ライトレールの整備⇒JR富山港線を公設民営により日本初の本格的LRTに再生
  - 市内電車環状線化事業⇒上下分離方式（上(運行)：富山地方鉄道(民間)  
 下(施設・車両の保有、整備)：富山市)
  - 路面電車南北接続事業⇒富山駅南側の市内電車と北側の富山港線を富山駅内高架下で接続  
 安全性・景観形成・賑わいづくりなどを実現したトランジットモール空間
  - 公共交通沿線への居住推進⇒建設事業者向け、市民向けそれぞれに補助金による支援

その他の関連事業

  - ↳ トランジットモール社会実験⇒道路空間を活用した賑わい創出
  - おでかけ定期券事業⇒65歳以上の高齢者を対象に市内各地から中心市街地へ出かける際に  
 公共交通機関を1乗車100円で利用できる制度
  - スマートフォンアプリ「とほ活」⇒歩数や公共交通利用、イベント参加でポイント付与
  - とやまレールライフプロジェクト⇒親子でおでかけ事業など

## 所感

大きなまちづくりの枠組みの中で、公共交通の活性化を実施されており大変勉強になった。三田市においても抱えている課題は同じであり、まずは、現状、今後の社会動態をデータで把握し、課題を認識した上で、どのようなまちにしていくのかを示すことが何よりも重要だと感じた。その内容を市民に理解いただくことも重要で、富山市では100回近く市民との意見交換会を実施したと聞いた。市民と行政が同じ方向を向きまちづくりをしていくには、それぐらいの情熱と時間をかける必要があるとあらためて感じた。



事業説明聴講時の様子

別紙4 石川県金沢市

視察先	石川県金沢市
視察日時	令和8年1月22日 10:00～11:30
視察内容	災害時の2次避難所について

令和6年能登半島地震状況

発生日時：令和6年1月1日 午後4時10分

震源地：石川県能登地方（輪島東北東30km付近）

震源の深さ：16km 地震の規模：マグニチュード7.6 最大震度：7（輪島市、志賀町）※金沢市 震度5強

被害の状況

人的被害：負傷者9人 死者1人(災害関連死)

建物被害：23,885件（全壊56件、半壊424件、一部損壊等23,405件）

道路被害：3,049件（路面陥没、ひび割れ等）

河川被害：101件（護岸崩落、損傷等） 崖地被害：259件 水道被害：約1,100戸

下水道被害：市内全域 約57km ※復旧には数年かかる見込み

視察内容

金沢市地域防災計画(第1次)の改定（令和6年5月）

①能登半島地震を教訓とした避難所運営の改善

避難所開設のための自動解除キーボックス導入、拠点避難所への福祉用品の配備

②大規模災害を見据えた対応体制の強化

衛星通信機器(スターリンク)の導入、帰宅困難者対応マニュアル策定、トイレトララク配備

③市民への情報発信力強化、防災啓発の充実

情報発信の一元化、災害体験VR、企業防災士の育成・支援、社内備蓄の推進

金沢市地域防災計画(第2次)の改定（令和7年5月）

①避難所のあり方や備蓄計画など見直しの検討

届出避難所登録制度(自治会や自主防災組織が自主的に開設する避難所)、車中泊避難への対応

②新たに設定された被害想定項目（災害関連死、孤立集落、帰宅困難者など）への対応策の検討

避難所生活環境の改善、避難所運営支援者の育成(学生との連携)、孤立集落対策マニュアル

③災害シナリオに沿った、主に「いのちを守る」減災・予防策の検討

耐震化対策、ライフラインへの対応、生活機能支障への対応、防災啓発

④早期復旧・復興に向けた受援体制強化の検討

災害フェーズに合わせた災害対策本部体制の検討

⑤デジタル技術の活用及び適正な災害広報

災害時広報、情報発信マニュアルの整備

所感

能登半島地震における被害状況、現場での経験などを知ることができ、大変勉強になった。幸いにも被害が大きくなかった金沢市における、他被害が大きな市町からの避難者の受け入れなどの対応状況を学ばせていただいた。

三田市においても、懸念される南海トラフ地震では被害予想は小さくなく、近隣の被害予想が大きな市町からの避難者の受け入れを検討する必要があると考えている。災害に対する備えとして、出来る限りの事前の準備が重要と考えており、

1.5次、2次避難所の準備、また備蓄や設備、そして災害発生時に迅速に対応できるよう具体的な広域でのネットワークづくりなど、今回の経験を活かし、検討を深めていく。

想定外とはいえ、視察当日に大雪に見舞われ市内各地での緊急対応がある中、

視察を受け入れていただき、あらためて感謝とともに視察内容をしっかりと三田市政に反映していきたい。

視察を受け入れていただき、あらためて感謝とともに視察内容をしっかりと三田市政に反映していきたい。



説明聴講時の様子